



千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.6.16 No. 4610

夏季物販をやらぬ

夏季物販をやらぬ

四三名の不当解雇された仲間を守る物品販売の闘いも今年で一一年目を迎えました。

国鉄分割・民営化反対ストを口実とした二八名の公労法解雇撤回闘争は、一〇年間の原則的闘いと全国の仲間の暖かい支援に支えられて、ついに全員の解雇撤回をかちとりました。

一方、清算事業団一二名の解雇撤回闘争は正念場を迎えています。一昨年春、東京高裁は差別・選別の解雇を正当化する反動棄却判決を強行し、昨年五月一〇日、中央労働委員会は動労千葉一二名の「採用差別事件」について、全員採用の地労委命令を踏みにじり、採用を二名に絞る反動命令を出しました。

しかし、九〇年三月三十一日、国鉄清算事業団が一〇四七名の国鉄労働者に一方的な整理解雇通告を強行してから七年目を迎える中、動労千葉の当該一二名は、「あの悔しさを忘れない」と解雇撤回・原職復帰をめざして意気高く闘い抜いています。

そして、あらゆる闘争圧殺策動をはねのけて、国労闘争団の仲間を先頭に千名をこえる不屈の大規模争議が闘い抜かれていくのです。

「戦争と大失業の時代」の到来にあつて、日米安保ガイドライン情勢とも云うべき、一切が「朝鮮有事」参戦国家体制づくりに向って大きく動きだしています。「翼賛国会」のもとで沖繩米軍用地特措法の改悪強行に始まり、労基法の女子保護規定の撤廃や医療保険、年金制度の改悪という労働者保護法や社会保障制度の解体、組織的犯罪対策法の策動など、政府・財界はやりたい放題です。

こうしたとき、清算事業団闘争は国鉄労働運動の闘う伝統を守るだけでなく、橋本政権の行革攻撃や戦争国家づくりに向かう、日本労働運動の「希望の星」です。

JR総連解体のJR体制打倒を貫き、清算事業団闘争勝利に向け、まず、動労千葉の組合員が先頭に立ち、「一人二万円」を達成し、物販闘争をつうじて全国津々浦々から、地域へ、職場へ、「安保・沖繩、国鉄闘争」を軸に、でっかい労働者の闘う団結を創りだそう！

公労法解雇撤回の勝利を全回せよ！

地引き網大会のご案内



今年も、下記のとおり恒例の「団結地引き網大会」を開催します。

組合員・家族・OBのみなさまのご参加をお待ちしております。

日時 7月21日 (月・祝) 午前9時より
場所 九十九里 一松(ひとつま) 海岸 海の家「あいの」
交通 外房線茂原駅東口よりバス 白子車庫行きで「一松海岸」下車
【茂原発】 8:10、9:11
※ 駐車場もあります。

国鉄千葉動力車労働組合

正念場を迎えた 国鉄闘争の勝利をめざす

7.13 労働者集会

国鉄分割・民営化から十年、一〇四七名の解雇撤回闘争を中心とした国鉄闘争は、十年間の攻防戦の一切を閉じ最大の正念場を迎えました。橋本政権は、二八名に押しつぶされた旧国鉄の長西渡部問題と一〇四七名問題を一括決着するのの方針を固め、第二の分割・民営化とも言うべき、新たな国鉄闘争総攻撃に踏みだそうとしています。分割・民営化体制の全面的な行きつまりにあえぎ、もはや山積みになった矛盾の「処理策」を先送りすることもできない事態に直面して、いよいよ正面突撃をかかざる攻撃に打って出さざるを得ないのです。

攻撃の焦点は、国鉄最大の狙いでありながら、失敗に終わった国鉄労働運動の清算事業団闘争の解体です。中曾根は、先般「雑音」のインタビューに答えて、その「総評を崩壊させよう」と思っていたからだと告白し、民営化の意図を明瞭に語っています。

橋本政権は、安保条約の技術的改悪と沖繩闘争の断行、そして国鉄闘争の正念場を迎え、生き残りの道と定め、激しい攻撃を仕掛けています。

7月13日 (日) 午後1時より
労働スクエア東京・大ホール (東京都勤労福祉会館) 地下鉄日比谷線・JR京葉線 八丁堀駅すぐ
国鉄千葉動力車労働組合 千葉市中央区要町2-8 ☎ 043 (222) 7207